

ADVENTURE SYSTEM

## ADVENTURE\_IO

I/O format and libraries for ADVENTURE mudules

Document 入出力関数リスト

February 17, 2006

ADVENTURE Project

## 目次

1	AdvFile の Open/Close	1
2	AdvDocument の Open/Close	2
3	AdvDocument の Status	4
4	property の読み書き	6
5	マスタデータの読み込み	9
6	マスタデータの書き込み	14
7	Databox 関連	18
8	その他	21

## 1 AdvFile の Open/Close

- `AdvDocFile* adv_dio_file_open (const char* filename, const char* mode)`  
Adv ファイルを開く.

---

戻り値	AdvDocFile のポインタ
引数	<code>filename:</code> AdvDocFile に格納するファイルの名前 <code>mode:</code> オープンする目的を表すモード 'r' for read(default), 'c' for create, 'a' for append

---

- `void adv_dio_file_close(AdvDocFile* dfile)`  
Adv ファイル `dfile` をクローズする.

---

戻り値	なし
引数	<code>dfile:</code> クローズする AdvDocFile のポインタ

---

- `const char* adv_dio_file_get_locator(AdvDocFile* dfile)`  
`dfile` が指している Advfile の絶対パスを返す.

---

戻り値	絶対パス
引数	<code>dfile:</code> AdvDocFile のポインタ

---

## 2 AdvDocument の Open/Close

- AdvDocument\* adv\_dio\_create (AdvDocFile\* dfile, const char\* did)  
dfile の中に新規に Document をオープンする。DocumentID did は、adv\_dio\_make\_documentid(4 ページ) を用いて作成する。

戻り値	開く AdvDocument のポインタ
引数	dfile: AdvDocFile ポインタ did: AdvDocument に付ける DocumentID

- AdvDocument\* adv\_dio\_open\_by\_documentid(AdvDocFile\* dfile, const char\* did)  
dfile の中から指定した DocumentID を持つ Document をオープンする。

戻り値	該当する AdvDocument のポインタ
引数	dfile: AdvDocFile のポインタ (検索元) did: DocumentID

- AdvDocument\* adv\_dio\_open\_nth (AdvDocFile\* dfile, int n)  
dfile 中の n 番目の Document をオープンする。

戻り値	該当する AdvDocument のポインタ
引数	dfile: AdvDocFile のポインタ (検索元) n: 整数

- AdvDocument\* adv\_dio\_open\_by\_property (AdvDocFile\* dfile, void \* prev, ..., NULL)  
dfile 中から指定した property を含む Document をオープンする。”...”には検索する property の key と 値 を順に文字列として並べる。prev が NULL の場合は一番最初にマッチしたドキュメントを返す。prev を以前マッチした Document のポインタとした場合は、prev の指す Document の次にマッチする Document が得られる。検索指定の最後には必ず NULL を付け加える。

戻り値	該当する AdvDocument のポインタ
引数	dfile: 検索先の AdvDocFile prev: ”...”の条件にマッチする Document ”...”: 検索条件

使用例：

```

doc = adv_dio_open_by_property
    ( dfile, NULL, "content_type", "FEGenericAttribute",
      "label", "Load", NULL);
/* dfile から "content_type=FEGenericAddribute" と "label=Load"
   の property を持つ Document を一つ開く。*/

```

- AdvDocument\* adv\_dio\_open\_by\_locator (const char\* locator)  
 locator (Document が収録されているファイルへのパスと DocumentID の組合せ:  
 4 ページ参照) に対応する Document を開く.

戻り値	該当する Document のポインタ
引数	locator: ファイルへのパスと DocumentID を文字 "?" でつなげた文字列

- void adv\_dio\_close (AdvDocument\* doc)  
 Document をクローズする.

戻り値	なし
引数	doc: 閉じる Document のポインタ

### 3 AdvDocument の Status

- `const char* adv_dio_make_documentid(const char* str)`  
str を基に DocumentID を作る。

戻り値	作った DocumentID
引数	str: DocumentID の基になる文字列 (例えば label@content_type)

- `const char* adv_dio_get_documentid (AdvDocument* doc)`  
doc の指している Document の DocumentID を返す。

戻り値	DocumentID (文字列)
引数	doc: Document のポインタ

- `adv_off_t adv_dio_get_size (AdvDocument* doc)`  
doc の指している Document のマスメータの size を返す。

戻り値	Document の size (整数)
引数	doc: Document のポインタ

- `const char* adv_dio_get_locator (AdvDocument* doc)`  
Document doc の locator を取得する。locator は Document をユニークに指し示すための文字列であり、file の絶対パスと doc の DocumentID より file の絶対パスと DocumentID を文字 ”?” でつなげた文字列で表わされる。

戻り値	locator 文字列
引数	doc: AdvDocument

使用例 :

```
/******  
example.c  
*****/  
AdvDatabox *dbox;  
AdvDocument *docin;  
  
dbox = adv_dbox_new();  
adv_dbox_add(dbox, argv[1]);
```

```
docin = adv_dbox_find_by_property(  
    dbox, NULL, "label", "Displacement", NULL);  
/* "label=Displacement" の Property を持つ Document を docin にいれる */  
fprintf(stdout, "%s\n", adv_dio_get_locator(docin));
```

出力結果：

```
% example Disp.adv  
/home/Disp.adv?6B8B4567:Displacement@HDDM_  
FEGA:1988:39E5AB59  
（ Disp.adv のパスと docin の DocumentID が表示された）  
%
```

## 4 property の読み書き

- `void adv_dio_set_property(AdvDocument* doc, const char* key, const char* val)`

Document doc に char 型の値を持つ property をセットする。

戻り値	なし
引数	doc: セットする AdvDocument key: property の項目 val: 値としてセットする char 型データ

- `void adv_dio_set_property_int32(AdvDocument* doc, const char* key, int32 val)`

Document doc に int32 型の値を持つ property をセットする。

戻り値	なし
引数	doc: セットする AdvDocument key: property の項目 val: 値としてセットする int32 型データ

- `void adv_dio_set_property_float64(AdvDocument* doc, const char* key, float64 val)`

Document doc の property に float64 型の値を持つ property をセットする

戻り値	なし
引数	doc: セットする AdvDocument key: property の項目 val: 値としてセットする float64 型データ

- `const char* adv_dio_get_property(AdvDocument* doc, const char* key)`

Document doc から、char 型の値を持つ property を読む。

戻り値	key に対応する property の値
引数	doc: 読む AdvDocument key: property の項目

- `bool adv_dio_get_property_int32(AdvDocument* doc, const char* key, int32* val)`

Document doc から、int32 型の値を持つ property を読む。

戻り値	正常時：0 以外の値、エラー時：値 0
引数	doc: 読む AdvDocument key: property の項目 val: データ代入先ポインタ (int32 型)

- `bool adv_dio_get_property_float64(AdvDocument* doc, const char* key, float64* val)`

Document doc から、float64 型の値を持つ property を読む。

戻り値	正常時：0 以外の値、エラー時：値 0
引数	doc: 読む AdvDocument key: property の項目 val: データ代入先ポインタ (float64 型)

- `bool adv_dio_get_nth_property(AdvDocument* doc, int n, char* key, int keysize, char* val, int valsize)`

Document doc の n 番目の property の項目と値をそれぞれ key, val に入れる。keysize, valsize はそれぞれ key, val の読み込み最大文字数であり、key, val はあらかじめそれより大きな領域を確保しておく必要がある。

戻り値	正常時：0 以外の値、エラー時：値 0
引数	doc: 読み込み先の AdvDocument n: 整数 key: property の項目名を表すポインタ keysize: key に格納できる最大の文字数 val: 変数のポインタ valsize: val に格納できる最大の文字数

#### 使用例

```
AdvDocument *doc
int n = 0;
char key[1024];
char val[1024];
while (adv_dio_get_nth_property
       (doc, n, key, sizeof(key), val, sizeof(val))) n++;
/* 全ての property を読み込む */
```

- void adv\_dio\_unset\_nth\_property (AdvDocument\* doc, int n)  
doc に格納された Document の n 番目の property をメモリから消去する。

---

戻り値	なし
引数	doc: property を消去する AdvDocument ポインタ n: 整数

---

## 5 マスデータの読み込み

- `int32 adv_dio_read_octet(AdvDocument* doc, adv_off_t offset, int32 len, octet* buf)`

AdvDocument doc のマスデータ<sup>1</sup> を offset の位置から octet 型 (8 ビット型) データとして、len 個を読む。

戻り値	読み込んだデータのサイズ
引数	doc: 読み取る Document
	offset: マスデータ内の読み込み位置
	len: 読み取る octet data の個数
	buf: 読み取った octet data の格納先アドレス

- `int32 adv_dio_read_string_length(AdvDocument* doc, adv_off_t offset)`  
AdvDocument doc のマスデータの offset の位置にある文字列データの文字数を数える。

戻り値	読み込んだデータのサイズ
引数	doc: 読み取る Document
	offset: マスデータ内の読み込み位置

- `int32 adv_dio_read_string(AdvDocument* doc, adv_off_t offset, char* buf)`  
AdvDocument doc のマスデータの offset の位置にある文字列データを読み込んで、buf に格納する。buf のサイズは文字列データの文字数以上確保しておく必要がある。

戻り値	読み込んだデータのサイズ
引数	doc: 読み取る Document
	offset: マスデータ内の読み込み位置
	buf: 読み込んだ文字列データの格納先アドレス

- `int32 adv_dio_read_int8(AdvDocument* doc, adv_off_t offset, int8* val)`  
AdvDocument doc のマスデータを offset の位置から 8 ビット int 型として読み込む。

---

<sup>1</sup>Raw Data と呼ばれる

戻り値	読み込んだデータのサイズ
引数	doc: 読み取る Document
	offset: マスデータ内の読み込み位置
	val: 読み込んだデータの格納先アドレス

- `int32 adv_dio_read_int8v(AdvDocument* doc, adv_off_t offset, int num, int8* val)`

AdvDocument doc のマスデータを offset の位置から 8 ビット int 型として num 個読み込む。

戻り値	読み込んだデータのサイズ
引数	doc: 読み取る Document
	offset: マスデータ内の読み込み位置
	num: 読み取るデータの個数
	val: 読み込んだデータの格納先アドレス

- `int32 adv_dio_read_int16(AdvDocument* doc, adv_off_t offset, int16* val)`

AdvDocument doc のマスデータを offset の位置から 16 ビット int 型として読み込む。

戻り値	読み込んだデータのサイズ
引数	doc: 読み取る Document
	offset: マスデータ内の読み込み位置
	val: 読み込んだデータの格納先アドレス

- `int32 adv_dio_read_int16v(AdvDocument* doc, adv_off_t offset, int num, int16* val)`

AdvDocument doc のマスデータを offset から 16 ビット int 型として num 個読み込む。

戻り値	読み込んだデータのサイズ
引数	doc: 読み取る Document
	offset: マスデータ内の読み込み位置
	num: 読み取るデータの個数
	val: 読み込んだデータの格納先アドレス

- `int32 adv_dio_read_int32(AdvDocument* doc, adv_off_t offset, int32* val)`

AdvDocument doc のマスデータを offset から 32 ビット int 型として読み込む。

戻り値	読み込んだデータのサイズ
引数	doc: 読み取る Document
	offset: マスデータ内の読み込み位置
	val: 読み込んだデータの格納先アドレス

- `int32 adv_dio_read_int32v(AdvDocument* doc, adv_off_t offset, int num, int32* val)`

AdvDocument doc のマスデータを offset から 32 ビット int 型として num 個読み込む。

戻り値	読み込んだ型データのサイズ
引数	doc: 読み取る Document
	offset: マスデータ内の読み込み位置
	num: 読み取るデータの個数
	val: 読み込んだデータの格納先アドレス

- `int32 adv_dio_read_int64(AdvDocument* doc, adv_off_t offset, int64* val)`

AdvDocument doc のマスデータを offset から 64 ビット int 型として読み込む。64 ビット int 型が用意されていない環境では val のデータ型には int32\* を用いる。この場合、32 ビット分のみが返される。

戻り値	読み込んだデータのサイズ
引数	doc: 読み取る Document
	offset: マスデータ内の読み込み位置
	val: 読み込んだデータの格納先アドレス

- `int32 adv_dio_read_int64v(AdvDocument* doc, adv_off_t offset, int num, int64* val)`

AdvDocument doc のマスデータを offset から 64 ビット int 型として num 個読み込む。64 ビット int 型が用意されていない環境では val のデータ型には int32\* を用いる。この場合、32 ビット分のみ返される。

戻り値	読み込んだデータのサイズ
引数	doc: 読み取る Document
	offset: マスデータ内の読み込み位置
	num: 読み取るデータの個数
	val: 読み込んだデータの格納先アドレス

- `int32 adv_dio_read_float32(AdvDocument* doc, adv_off_t offset, float32* val)`  
 AdvDocument doc のマステーデータを offset から 32 ビット float 型として読み込む。

戻り値	読み込んだデータのサイズ
引数	doc: 読み取る Document
	offset: マステーデータ内の読み込み位置
	val: 読み込んだデータの格納先アドレス

- `int32 adv_dio_read_float32v(AdvDocument* doc, adv_off_t offset, int num, float32* val)`  
 AdvDocument doc のマステーデータを offset から 32 ビット float 型として num 個読み込む。

戻り値	読み込んだデータのサイズ
引数	doc: 読み取る Document
	offset: マステーデータ内の読み込み位置
	num: 読み取るデータの個数
	val: 読み込んだデータの格納先アドレス

- `int32 adv_dio_read_float64(AdvDocument* doc, adv_off_t offset, float64* val)`  
 AdvDocument doc のマステーデータを offset から 64 ビット float 型として読み込む。

戻り値	読み込んだデータのサイズ
引数	doc: 読み取る Document
	offset: マステーデータ内の読み込み位置
	val: 読み込んだデータの格納先アドレス

- `int32 adv_dio_read_float64v(AdvDocument* doc, adv_off_t offset, int num, float64* val)`  
 AdvDocument doc のマステーデータを offset から 64 ビット float 型として num 個読み込む。

---

戻り値		読み込んだデータのサイズ
引数	doc:	読み取る Document
	offset:	マスタデータ内の読み込み位置
	num:	読み取るデータの個数
	val:	読み込んだデータの格納先アドレス

---

## 6 マスデータの書き込み

- `int32 adv_dio_write_octet (AdvDocument* doc, adv_off_t offset, int32 length, const octet* buf)`

Document `doc` の `offset` の位置に `octet` 配列 `buf` を書き込む。

戻り値	書き込んだデータサイズ
引数	<code>doc</code> : 書き込む Document
	<code>offset</code> : マスデータ内の書き込み位置
	<code>len</code> : 書き込む Octet Data の長さ
	<code>buf</code> : 書き込む Octet Data

- `int32 adv_dio_write_string (AdvDocument* doc, adv_off_t offset, const char* buf)`

Document `doc` の `offset` の位置に文字列 `buf` を書き込む。

戻り値	書き込んだデータサイズ
引数	<code>doc</code> : 書き込む Document
	<code>offset</code> : マスデータ内の書き込み位置
	<code>buf</code> : 書き込む文字列データ

- `int32 adv_dio_write_int8 (AdvDocument* doc, adv_off_t offset, int8 val)`

Document `doc` の `offset` の位置に 8ビット `int` 型のデータを書き込む。

戻り値	書き込むデータのサイズ
引数	<code>doc</code> : 書き込む Document
	<code>offset</code> : マスデータ内の書き込み位置
	<code>val</code> : 書きこむデータ

- `int32 adv_dio_write_int8v (AdvDocument* doc, adv_off_t offset, int num, const int8* val)`

Document `doc` の `offset` の位置に `num` 個の 8ビット `int` 型データを書き込む。

戻り値	書き込んだデータのサイズ
引数	<code>doc</code> : 書き込む Document
	<code>offset</code> : マスデータ内の書き込み位置
	<code>num</code> : データの個数
	<code>buf</code> : 書き込むデータ

- `int32 adv_dio_write_int16 (AdvDocument* doc, adv_off_t offset, int16 val)`  
Document `doc` の `offset` の位置に 16 ビット `int` 型データを書き込む。

戻り値	書き込んだデータのサイズ
引数	<code>doc</code> : 書き込む Document
	<code>offset</code> : マスデータ内の書き込み位置
	<code>val</code> : 書き込むデータ

- `int32 adv_dio_write_int16v (AdvDocument* doc, adv_off_t offset, int num, const int16* val)`  
Document `doc` の `offset` の位置に `num` 個の 16 ビット `int` 型データを書き込む。

戻り値	書き込んだデータのサイズ
引数	<code>doc</code> : 書き込む Document
	<code>offset</code> : マスデータ内の書き込み位置
	<code>num</code> : データの個数
	<code>val</code> : 書き込むデータ

- `int32 adv_dio_write_int32 (AdvDocument* doc, adv_off_t offset, int32 val)`  
Document `doc` の `offset` の位置に 32 ビット `int` 型データを書き込む。

戻り値	書き込んだデータサイズ
引数	<code>doc</code> : 書き込む Document
	<code>offset</code> : マスデータ内の書き込み位置
	<code>val</code> : 書き込むデータ

- `int32 adv_dio_write_int32v (AdvDocument* doc, adv_off_t offset, int num, const int32* val)`  
Document `doc` の `offset` の位置に `num` 個の 32 ビット `int` 型データを書き込む。

戻り値	書き込んだデータのサイズ
引数	<code>doc</code> : 書き込む Document
	<code>offset</code> : マスデータ内の書き込み位置
	<code>num</code> : データの個数
	<code>val</code> : 書き込むデータ

- `int32 adv_dio_write_int64 (AdvDocument* doc, adv_off_t offset, int64 val)`  
Document `doc` の `offset` の位置に 64 ビット `int` 型データを書き込む。64 ビッ

ト int 型が用意されていない環境では val のデータ型には int32 を用いる。この場合、不足の 32 ビット分に 0 が埋められて出力される。

戻り値	書き込んだデータのサイズ
引数	doc: 書き込む Document
	offset: マスデータ内の書き込み位置
	val: 書き込むデータ

- int32 adv\_dio\_write\_int64v (AdvDocument\* doc, adv\_off\_t offset, int num, const int64\* val)

Document doc の offset の位置に num 個の 64 ビット int 型データを書き込む。64 ビット int 型が用意されていない環境では val のデータ型には int32\* を用いる。この場合、不足の 32 ビット分に 0 が埋められて出力される。

戻り値	書き込んだデータのサイズ
引数	doc: 書き込む Document
	offset: マスデータ内の書き込み位置
	num: データの個数
	val: 書き込むデータ

- int32 adv\_dio\_write\_float32 (AdvDocument\* doc, adv\_off\_t offset, float32 val)

Document doc の offset の位置に 32 ビット float 型データを書き込む。

戻り値	書き込んだデータのサイズ
引数	doc: 書き込む Document
	offset: マスデータ内の書き込み位置
	val: 書き込むデータ

- int32 adv\_dio\_write\_float32v (AdvDocument\* doc, adv\_off\_t offset, int num, const float32\* val)

Document doc の offset の位置に num 個の 32 ビット float 型データを書き込む。

戻り値	書き込んだデータのサイズ
引数	doc: 書き込む Document
	offset: マスデータ内の書き込み位置
	num: データの個数
	val: 書き込むデータ

- int32 adv\_dio\_write\_float64 (AdvDocument\* doc, adv\_off\_t offset, float64 val)

Document doc の offset の位置に 64 ビット float 型のデータを書き込む。

戻り値	書き込んだデータのサイズ
引数	doc: 書き込む Document
	offset: マスデータ内の書き込み位置
	val: 書き込むデータ

- int32 adv\_dio\_write\_float64v (AdvDocument\* doc, adv\_off\_t offset, int num, const float64\* val)

Document doc の offset の位置に num 個の 64 ビット float 型データを書き込む。

戻り値	書き込んだデータのサイズ
引数	doc: 書き込む Document
	offset: マスデータ内の書き込み位置
	num: データの個数
	val: 書き込むデータ

## 7 Databox 関連

- `AdvDatabox* adv_dbox_new(void)`  
AdvDocument を入れるデータボックスを開く。

---

戻り値	開いた AdvDatabox のポインタ
引数	なし

---

- `bool adv_dbox_add(AdvDatabox* adb, const char* locator)`  
locator が示すファイル内の Document をデータボックス adb に格納する。

---

戻り値	正常時：0 以外の値、エラー時：値 0
引数	adb: AdvDocument を格納する AdvDatabox locator: AdvDocument を含んだファイル名

---

- `void adv_dbox_close(AdvDatabox* adb)`  
AdvDatabox adb をクローズする。

---

戻り値	なし
引数	adb: 閉じる AdvDatabox

---

- `AdvDocument* adv_dbox_find_by_documentid(AdvDatabox* adb, const char* docid)`  
AdvDatabox adb から DocumentID が docid の Document をオープンする。

---

戻り値	該当する AdvDocument のポインタ
引数	adb: AdvDatabox docid: Document ID を表す文字列

---

- `AdvDocument* adv_dbox_find_by_property(AdvDatabox* adb, AdvDocument* prev, ...)`  
AdvDatabox adb の中から、指定した property にマッチする Document を検索する。prev と ... は `adv_dio_open_by_property(2 ページ)` に同じ。

---

戻り値	該当する AdvDocument のポインタ
引数	adb: 検索先の AdvDatabox prev: ... の条件にマッチする Document ...: 検索条件

---

- `int adv_dbox_count_by_property(AdvDatabox* adb, ...)`  
AdvDatabox adb 中の指定した property にマッチする Document の数を数える。

戻り値	該当する Document の個数
引数	adb: 検索先の AdvDatabox ...: 検索条件 指定の仕方は adv_dio_open_by_property(2 ページ) に同じ

- `AdvDocument* adv_dbox_open_nth(AdvDatabox* adb, int n)`  
AdvDatabox adb の中で n 番目に記録されている Document を開く。

戻り値	該当する AdvDocument のポインタ
引数	adb: 検索先の AdvDatabox n: 整数

使用例 :

adb に格納されている全ての Document の Document-ID を表示する。

```
void main(int argc, char* argv[]){

    int i=0;
    AdvDatabox *adb;
    AdvDocument *doc;

    adb = adv_dbox_new();
    adv_dbox_add(adb, "test.adv");
    while( (doc = adv_dbox_open_nth(adb, i++)) != NULL )
        fprintf(stderr, "%s\n", adv_dio_get_documentid(doc));
        /* adv_dio_get_documentid(doc) :
           doc の Document-ID を返す */
}
```

出力結果 :

```
6B8B4567:HDDM_FEGA@HDDM_Part[0]:190F:39B4FB9B
643C9869:HDDM_FEGA@HDDM_Part[0]:190F:39B4FB9B
74B0DC51:HDDM_FEGA@HDDM_Part[0]:190F:39B4FB9B
2AE8944A:HDDM_FEGA@HDDM_Part[0]:190F:39B4FB9B
238E1F29:HDDM_FEGA@HDDM_Part[0]:190F:39B4FB9B
3D1B58BA:HDDM_FEGA@HDDM_Part[0]:190F:39B4FB9B
```

2EB141F2:HDDM\_FEGA@HDDM\_Part [0] :190F:39B4FB9B  
79E2A9E3:HDDM\_FEGA@HDDM\_Part [0] :190F:39B4FB9B  
515F007C:HDDM\_FEGA@HDDM\_Part [0] :190F:39B4FB9B  
12200854:HDDM\_FEGA@HDDM\_Part [0] :190F:39B4FB9B  
216231B:HDDM\_FEGA@HDDM\_Part [0] :190F:39B4FB9B  
1190CDE7:HDDM\_FEGA@HDDM\_Part [0] :190F:39B4FB9B  
140E0F76:HDDM\_FEGA@HDDM\_Part [0] :190F:39B4FB9B  
109CF92E:HDDM\_FEGA@HDDM\_Part [0] :190F:39B4FB9B  
7FDCC233:HDDM\_FEGA@HDDM\_Part [0] :190F:39B4FB9B  
41A7C4C9:HDDM\_FEGA@HDDM\_Part [0] :190F:39B4FB9B  
4E6AFB66:DocumentList@HDDM\_Part [0] :190F:39B4FB9B

(adb の全ての Document の ID が表示された)

## 8 その他

- `void adv_dio_copy_to_file (AdvDocFile* dfile, AdvDocument* doc)`  
doc の指す Document を dfile の指す AdvFile にコピーする。

戻り値	なし
引数	dfile: コピー先 AdvFile doc: コピー元 Document

- `int adv_format_get_size(const char* format)`  
文字列 format で示されるフォーマットにより使用される データサイズを返す。  
format はマステータのフォーマットを表すために property に記述される文字列  
であり、i1、i2、i4、i8、f4、f8 の組合せで表される。

戻り値	format により表されるデータのサイズ (文字列 format がマステータのフォーマットを表す 正しい文字列で無い場合は -1 をかえす)
引数	format: マステータ の フォーマットを表す文字列

使用例 :

```
int bytes1,bytes2;
```

```
bytes1 = adv_format_get_size("i4f8f8");  
bytes2 = adv_format_get_size("int32_gata");  
printf("size of format = %d\n",bytes1);  
printf("size of int32_gata = %d\n",bytes2);
```

出力結果 :

```
size of i4f8f8 = 20
```

```
size of int32_gata = -1
```

("int32\_gata" はマステータのフォーマットを表す正しい文字列ではないので -1  
が返された。)

- `bool adv_format_pack(octet* buf, const char* format, ...)`  
フォーマット format により表されるデータを octet 型データ配列 buf にパック  
する。

戻り値	正常時：0 以外の値、エラー時：値 0
引数	buf: データ配列の格納先 (オクテットデータ配列) format: Raw Data のフォーマットを表す文字列 ...: データの並び

- `bool adv_format_pack_v(octet* buf, const char* format, va_list va)`  
可変引数リスト `va` 中のデータを `format` にあわせて `octet` 型データ配列 `buf` にパックする。

戻り値	正常時：0 以外の値、エラー時：値 0
引数	buf: データ配列の格納先 (オクテットデータ配列) format: マスデータのフォーマットを表す文字列 va: データを示す可変引数リスト

- `bool adv_format_unpack(octet* buf, const char* format, ...)`  
パックされた `octet` 型データ配列 `buf` から `format` にしたがってデータをアンパックする。

戻り値	正常時：0 以外の値、エラー時：値 0
引数	buf: パックされたデータ配列 format: フォーマットを表す文字列 ...: データを格納する変数のアドレスの並び

## 索引

adv_dbox_add .....	18	adv_dio_read_string_length .....	9
adv_dbox_close .....	18	adv_dio_set_property .....	6
adv_dbox_count_by_property .....	19	adv_dio_set_property_float64 .....	6
adv_dbox_find_by_documentid .....	18	adv_dio_set_property_int32 .....	6
adv_dbox_find_by_property .....	18	adv_dio_unset_nth_property .....	8
adv_dbox_new .....	18	adv_dio_write_float32 .....	16
adv_dbox_open_nth .....	19	adv_dio_write_float32v .....	16
adv_dio_close .....	3	adv_dio_write_float64 .....	17
adv_dio_copy_to_file .....	21	adv_dio_write_float64v .....	17
adv_dio_create .....	2	adv_dio_write_int16 .....	15
adv_dio_file_close .....	1	adv_dio_write_int16v .....	15
adv_dio_file_get_locator .....	1	adv_dio_write_int32 .....	15
adv_dio_file_open .....	1	adv_dio_write_int32v .....	15
adv_dio_get_documentid .....	4	adv_dio_write_int64 .....	15
adv_dio_get_locator .....	4	adv_dio_write_int64v .....	16
adv_dio_get_nth_property .....	7	adv_dio_write_int8 .....	14
adv_dio_get_property .....	6	adv_dio_write_int8v .....	14
adv_dio_get_property_float64 .....	7	adv_dio_write_octet .....	14
adv_dio_get_property_int32 .....	6	adv_dio_write_string .....	14
adv_dio_get_size .....	4	adv_format_get_size .....	21
adv_dio_make_documentid .....	4	adv_format_pack .....	21
adv_dio_open_by_documentid .....	2	adv_format_pack_v .....	22
adv_dio_open_by_locator .....	3	adv_format_unpack .....	22
adv_dio_open_by_property .....	2		
adv_dio_open_nth .....	2		
adv_dio_read_float32 .....	12		
adv_dio_read_float32v .....	12		
adv_dio_read_float64 .....	12		
adv_dio_read_float64v .....	12		
adv_dio_read_int16 .....	10		
adv_dio_read_int16v .....	10		
adv_dio_read_int32 .....	10		
adv_dio_read_int32v .....	11		
adv_dio_read_int64 .....	11		
adv_dio_read_int64v .....	11		
adv_dio_read_int8 .....	9		
adv_dio_read_int8v .....	10		
adv_dio_read_octet .....	9		
adv_dio_read_string .....	9		